

【議事】定 31

(1) 宇宙開発に関する重要な研究開発の評価結果について

青江部会長が資料 31-1(事前評価結果)をじっくりと説明し、異議が無かったので議決された。

【青江部会長発言】

部会長は各評価項目の要点を説明した後、判定結果を読んでいた。そして、「リスク管理」では、リアクションホイールについて言及し、『当初、「はやぶさ」で用いた、3 個中 2 個が故障したホイールを 4 個使うと解釈できるような説明であったが、よくよく聞いてみると、「はやぶさ」では M- 用に耐震性を向上させる改造をしていたが、今回は改造品ではなく、実績のある標準品を使うということであった。また、4 個使うのは(一般的に良く使われる方式であり) どの一個が故障しても 3 軸制御が成り立つ方式を選んだためである。』と説明していた。

井口：これは 13 年度に「研究」から「開発研究」にフェーズアップした。これは長いのでしょうか？ また、ホイールのことですが、説明の後に評価し直したとしたら、「疑問がある」を取り消してくれたでしょう。

(2) 平成 18 年「宇宙の日」記念行事の実施状況について

文科省の事務局が資料 31-2(宇宙の日)を説明した後、少々コメントが発せられた。

青江：教育委員会の協力を得たことは良い方法であった。もっと学校を巻き込んだ活動が必要で、博物館の協力により数箇所で開催する今のやり方では、砂漠に水をまいていようなものである。教育機関と一緒に活動¹をやっていたきたい。

事務局：募集期間が学校の夏休みであり、難しいことも有るかと思うが、工夫していきたい。

井口：別の話になるが、「だいち」を使って参加型の企画をやっているが、あれは良いですね。

¹ どんな成果を期待しているのか。子供たちに対して敷居を高くする必要は無いが、ご機嫌取りの方法を細々指示しても始まらない。宇宙開発委員は「日本の宇宙開発戦略」を検討して頂きたい。